

# 小 論 文

文部科学省は、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（令和3年1月26日中央教育審議会）」の中で、児童生徒が自己調整しながら学んでいくことができるように指導・支援することの重要性が掲げられている。

この流れを受けて、夏休みの宿題を減らしたり、取りやめたりする学校も出てきている。下記の記事の内容を踏まえつつ、あなた自身の経験も交えながら、自身が考える夏休みの宿題のあり方について600字程度で述べなさい。

名古屋テレビの記事「『夏休みの宿題』が変わる？名古屋市民におなじみの“夏の生活”を取りやめる学校も 教育評論家は歓迎」（令和6年7月19日）より抜粋

## 【小学生保護者に対する調査結果】

- ベネッセコーポレーションが行った、「小学生の夏休みの宿題に関する調査（小学生の保護者1728人対象）」では、回答した保護者の半数以上が、「自身の小学生時代と比べて、夏休みの宿題の量は少ない」と感じている。
- 机に向かうきっかけとなる宿題が減ることについて、不安を感じる保護者がいる。

## 【教育評論家 親野智可等氏の意見】

- 元々、夏休みは休み。「夏休みに勉強させなきゃ」は昭和・平成の思い込みに過ぎない。学期中も色々追いまくられ、夏休みになっても宿題で追いまくられる。これで本当にいいのかという反省点がある。～後略
- 夏休みの宿題は、児童生徒に一律で出される。同じ学年の児童生徒といえども、個人差は大きい。やる気など。一律で出された宿題によって、ものすごく苦しんでしまう。親は「何でやらないの？」と叱る回数が増えて、親と子ども共に、ストレスマックス。
- 前略～ 夏休みこそ、子どもが好きなことを、とことんやらせて応援してあげてほしい。～中略～ 子どもの時に色々なことを経験すると、芸術的な想像力や学問的探究心の原動力、エネルギーを培うことができる。